

# 2021年3月期 第1四半期 決算説明会

富士フイルム ホールディングス株式会社

2020年8月13日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

## 2021年3月期 第1四半期 決算のポイント

## ■ 2021年3月期 第1四半期 業績

(億円)

	実績	対前年	新型コロナ影響
売上高	4,563	-790 (-14.8%)	-930
営業利益	204	-167 (-45.1%)	-240
株主帰属四半期純利益	275	+128 (+87.6%)	-170

- ✓全体では、新型コロナ流行拡大影響を大きく受け、減収・営業減益
- ✓当社株主帰属四半期純利益は、富士ゼロックス完全子会社化による非支配持分帰属損益改善などが寄与し、増益。

2

富士フィルムホールディングスの2021年3月期 第1四半期の業績ですが、売上高は、前年比14.8%減の4,563億円、営業利益は、前年比45.1%減の204億円となりました。

新型コロナウイルス感染症流行拡大の影響は、売上高でマイナス930億円、営業利益でマイナス240億円になります。全世界で感染拡大が加速し、経済活動、消費活動が停滞したことで、当社の業績にも大きな影響が出ました。

株主帰属四半期純利益は、投資有価証券の評価益を計上したことや、富士ゼロックスの完全子会社化で非支配持分帰属損益を改善したことによって、前年比87.6%増の275億円となりました。

新型コロナウイルス感染症流行拡大により、事業によって業績に大きく影響を受けましたが、事業ポートフォリオの多様性によるリスクヘッジ効果と、積み重ねてきた各事業の体質強化や徹底的な経費削減により、マイナス影響を最小化しました。

## 2021年3月期 連結業績予想

## ■ 2021年3月期 連結業績予想

(億円)

	業績予想	対前年	新型コロナ影響
売上高	22,000	-1,151 (-5.0%)	-2,200
営業利益	1,400	-466 (-25.0%)	-650
株主帰属当期純利益	1,200	-50 (-4.0%)	-450

✓年間配当金は、95円/株を予定

## ■ 次期中期経営計画

- ✓2022年3月期を初年度とする3か年の中期経営計画を来年の春に公表
- ✓次期中期経営計画の骨子
  - ・ヘルスケア・高機能材料の成長加速
  - ・ドキュメント事業の新たな枠組みの中での世界展開
  - ・コロナ後の市場変化を見据えた一層の体質強化

次に、2021年3月期の業績予想について、  
売上高は2兆2,000億円、営業利益は1,400億円、株主帰属当期純利益は1,200億円としています。

イメージング、ドキュメント、メディカルシステムやグラフィックシステムといった事業を中心に  
第2四半期以降も新型コロナ影響を受けますが、第1四半期を底に、  
経済の再開にあわせ、第4四半期に向けて徐々に回復していく前提で計画しています。

昨年度実績、及び今年度業績予想から  
新型コロナ影響・為替影響・構造改革費用等一時費用を除いたオペレーションベースでの比較において、  
対前年増収・増益を達成します。

当期の株主帰属当期純利益は若干の減益となりますが、配当金は前期と同じ95円を予定します。

また、中期経営計画についてですが、今年度は新型コロナへの対応と次の飛躍のための準備期間と位置づけ、次期  
中期経営計画は2022年3月期を初年度とする3か年の計画とし、  
来年の春に皆様にお知らせする予定で、計画の策定を進めています。

次期中期経営計画は、  
「ヘルスケアと高機能材料の成長加速」  
「FUJIFILMブランドによるドキュメント事業の新たな枠組みの中での世界展開」  
「コロナ後の市場変化を見据えた一層の体質強化」  
を軸にした3か年計画を考えています。

## 新型コロナウイルス感染症に対する当社の取り組み

### 予防

- ✓米バイオテクノロジー企業Novavax社よりワクチン候補の原薬製造を受託。米政府より製造設備拡張を含めた拠出金約270億円。
- ✓環境清拭剤「Hydro Ag<sup>+</sup>」を医療現場・一般家庭に提供。



### 診断

- ✓唾液による迅速な新型コロナウイルスの検出を実現するPCR検査用試薬の販売開始
- ✓AI技術を活用した新型コロナ肺炎の診断支援技術開発を開始
- ✓肺炎診断などに使用する医療診断機器・材料の展開



### 治療

- ✓新型コロナ治療薬候補「アビガン<sup>®</sup>錠」
  - ・海外展開に向けてインド大手製薬企業Dr. Reddy's Laboratories社、及び世界的な医療物資・医薬品提供会社Global Response Aid社と提携。
- ✓「COVID-19 Therapeutics Accelerator」より治療薬のプロセス開発・製造を受託

当社グループは「トータルヘルスケアカンパニー」として、  
予防・診断・治療プロセスを通じて  
新型コロナ感染症対策に取り組めます。

4

新型コロナウイルス感染症の流行抑止に貢献するため、当社グループの総力をあげて取り組んでいます。

予防領域では、バイオCDMO事業の米国拠点において、米バイオテクノロジー企業Novavax社よりワクチン候補の原薬製造を受託しました。また本年7月には、米国政府がワクチンの開発を目的として立上げた官民連携プロジェクト「Operation Warp Speed」の一環として、製造設備拡張を含めた約270億円の拠出を受け、ワクチン候補の原薬製造を米国拠点で行ってまいります。

診断領域では、富士フィルム和光純薬が、唾液を検体とし、迅速な新型コロナウイルスの検出を実現するPCR検査用試薬の販売を開始しました。メディカルシステム事業では、肺炎診断などに用いられる回診用X線撮影装置や超音波画像診断装置を供給し、さらに装置の安定的な稼働をサポートしています。また、AI技術を活用した新型コロナウイルス肺炎の診断支援技術の開発を開始しました。

治療領域では、富士フィルム富山化学が開発した「アビガン<sup>®</sup>錠」について、日本での新型コロナウイルス感染症患者を対象とした企業治験は、当初の計画よりも時間を要していますが、治験にご協力いただく病院を増やすことで対応しており、出来るだけ早く治験を終了させて承認申請の手続きを進めます。「アビガン錠」の海外展開に向けて、インド大手製薬企業Dr. Reddy's Laboratories社、及び世界的な医療物資・医薬品提供会社Global Response Aid社と提携しました。

また、バイオCDMO事業では、世界最大の慈善基金団体であるビル&メリンダ・ゲイツ財団らが立ち上げた新型コロナウイルス感染症治療推進プロジェクト「COVID-19 Therapeutics Accelerator」から、治療薬のプロセス開発・製造を受託しています。

当社は、トータルヘルスケアカンパニーとして、その社会的責任を果たすため、予防・診断・治療プロセスを通じて新型コロナウイルス感染症流行の終息に最大限の努力をしています。

私からの説明は以上になります。

## 2021年3月期第1四半期 業績 (2020年4月～6月)

(単位：億円)

	1Q				
	2020年3月期	2021年3月期	対2020年3月期	為替影響	対2020年3月期 為替影響除く
売上高	5,353 100.0%	4,563 100.0%	-790 -14.8%	-97	-693 -13.0%
営業利益	371 6.9%	204 4.5%	-167 -45.1%	-34	-133 -36.0%
税金等調整前 四半期純利益	264 4.9%	422 9.2%	158 +59.9%	-20	178 +67.6%
当社株主帰属 四半期純利益	147 2.7%	275 6.0%	128 +87.6%	-14	142 +97.2%
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益	35.82円	68.80円	32.98円	＜その他増減要因（対前年度）＞ 営業利益における 原材料価格影響：+10億円	
為替：米ドル ：ユーロ	110円 123円	108円 119円	2円高 4円高		

5

2021年3月期第1四半期の業績は、  
売上高は、前年比14.8%減の4,563億円、  
営業利益は、前年比45.1%減の204億円となりました。

税金等調整前四半期純利益は、  
持分証券評価益の計上などにより、前年比59.9%増の422億円、  
当社株主帰属四半期純利益は、  
富士ゼロックスの完全子会社化で非支配持分帰属損益を改善したことによって、  
前年比87.6%増の275億円となりました。

## セグメント別 連結売上高／営業利益

(単位：億円)

売上高	1Q		対前年度	為替影響	新型コロナ 影響
	2020年 3月期	2021年 3月期			
ヘルスケア	1,041	1,079	38 (+3.7%)	-22	-60
ヘルスケア&マテリアルズ	2,276	2,171	-105 (-4.6%)	-39	-230
ドキュメント	2,331	1,894	-437 (-18.7%)	-42	-440
イメージング	746	498	-248 (-33.2%)	-16	-260
合計	5,353	4,563	-790 (-14.8%)	-97	-930

\*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益	1Q		対前年度	為替影響	新型コロナ 影響
	2020年 3月期	2021年 3月期			
ヘルスケア	53	44	-9 (-16.7%)	-5	-30
ヘルスケア&マテリアルズ	189	180	-9 (-4.7%)	-9	-60
ドキュメント	217	129	-88 (-40.8%)	-18	-100
イメージング	45	-30	-75 (赤字化)	-7	-80
本社/連結調整	-80	-75	5	-	0
合計	371	204	-167 (-45.1%)	-34	-240

続いて、セグメント別の業績ですが、各セグメントの売上・利益はご覧の通りです。

## セグメント別 概況

## ■ ヘルスケア&amp;マテリアルズ

(単位: 億円)					
売上高	対前年度		営業利益	対前年度	
2,171	-105	(-4.6%)	180	-9	(-4.7%)

- ・メディカルシステムでは、新型コロナ影響により売上は減少したが、肺炎診断のための回診用X線撮影装置や携帯型超音波診断装置の販売が伸長。
- ・バイオCDMOでは、バイオ医薬品のプロセス開発受託および製造受託が好調に推移。
- ・ディスプレイ材料では、液晶パネル向けのTAC製品などの売上は減少するも、在宅勤務・学習向けに需要が高いタブレット用ドライフィルムの販売が好調、売上は対前年横ばいを維持。
- ・電子材料では、在宅勤務・在宅学習向けにタブレットなどの需要が高まったことから、ロジック向けを中心にCMPスラリーなどの販売が好調に推移し、売上が増加。
- ・グラフィックでは、イベントの中止・自粛により印刷需要が減少し、売上は減少。

- ・売上は、新型コロナ影響などにより全体では減少となるも、バイオCDMOが好調なヘルスケア領域は増収。マテリアルズ領域のうち、高機能材料分野は増収。
- ・営業利益は減益も、新型コロナ影響を除くと増益。

まずは、ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション部門の業績の概要を説明します。

ヘルスケア領域ですが、  
 メディカルシステムは、病院への営業活動の自粛や商談の遅延などの新型コロナ影響により全体の売上は減少しましたが、肺炎診断のための回診用X線撮影装置や携帯型超音波診断装置の販売が伸長しました。  
 バイオCDMOは、デンマーク拠点の連結効果や、バイオ医薬品のプロセス開発および製造受託が好調に推移したことで、売上が増加しました。

マテリアルズ領域の状況について、  
 ディ스플레이材料は、液晶パネル向けのTAC製品などの売上が減少しましたが、在宅勤務や在宅学習向けに需要が高いタブレット用ドライフィルムの販売が好調で、全体の売上は対前年横ばいを維持しました。  
 電子材料は、PC・タブレット需要の増加を背景に、ロジック向けを中心にCMPスラリー等の販売が好調に推移し、売上が増加しました。  
 また、産業機材は、PC・タブレット向けの材料の販売が好調に推移しました。  
 グラフィックシステムは、刷版需要の減少に加え、新型コロナ影響によるイベントの自粛に伴いポスターやチラシなどの印刷需要が減少し、売上は減少しました。

ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション部門は、全体では減収となりましたが、ヘルスケア領域ではバイオCDMOの売上が好調に推移し、増収となりました。また、マテリアルズ領域のうち、高機能材料分野についても、新型コロナ影響下の需要増に的確に対応し、増収となりました。営業利益は減益となりましたが、新型コロナ影響を除くと増益となっています。

## セグメント別 概況

## ■ ドキュメント ソリューション

(単位:億円)					
売上高	対前年度		営業利益	対前年度	
1,894	-437	(-18.7%)	129	-88	(-40.8%)

- ・オフィスプロダクト&プリンターでは、国内は大型商談の獲得などにより、複合機の販売台数・売上が共に増加。新型コロナ影響によるオフィス閉鎖により、複合機の稼働が落ちたことで、プリントボリュームは減少。  
海外は、欧米向け輸出減少に加え、新型コロナ影響による営業活動の自粛や商談延期、オフィスの稼働低減などにより、販売台数、プリントボリューム共に減少。  
一方で在宅勤務の浸透により、全国のセブン-イレブン店頭に設置された複合機を利用した「ネットプリント®サービス」などの需要が拡大。
- ・プロダクションサービスでは、新型コロナ影響による先行き不透明感から、投資が抑制され、販売台数が減少。
- ・ソリューション&サービスでは、全体の売上は減少するも、オフィスに届くファクス文書を自宅で確認が出来るペーパーレスファクスソリューションなどの販売が増加。

- ・売上は、新型コロナ影響に加え、アジア通貨安により減収。
- ・営業利益は減益も、新型コロナ影響を除くと増益。

ドキュメント ソリューション部門の業績の概要について説明します。

オフィスプロダクト&プリンターは、国内は大型商談の獲得などにより、複合機の販売台数・売上が共に増加しました。新型コロナ影響によるオフィス閉鎖により複合機の稼働が落ちたことで、プリントボリュームは減少しました。

海外は、欧米向け輸出減少や新型コロナ影響による営業活動の自粛や商談の延期に加え、オフィス稼働の低減などで、販売台数、プリントボリューム共に減少しました。

一方で、在宅勤務の浸透により、全国のセブン-イレブン店頭に設置された複合機を利用した「ネットプリント®サービス」などの需要が拡大しました。

プロダクションサービスでは、新型コロナ影響による先行き不透明感から、投資が抑制されたことで、販売台数が減少しました。

ソリューション&サービスは、全体の売上は減少しましたが、オフィスに届くファクス文書を自宅で確認が出来るペーパーレスファクスソリューションなどの販売が増加しました。

ドキュメント ソリューション部門は、新型コロナ影響に加えて、アジア通貨安による為替マイナス影響を受け売上高は減少しました。営業利益は、減益となりましたが、新型コロナ影響を除くと増益となっています。



## セグメント別 概況

## ■ イメージング ソリューション

売上高	対前年度		営業利益	対前年度	
	金額	増減率		金額	増減率
498	-248	(-33.2%)	-30	-75	(赤字化)

(単位：億円)

- ・フォトイメージングでは、カラーペーパーの需要減に加え、新型コロナ影響による店舗の休業や外出規制により売上が減少。6月度単月では「instax mini 11」を中心に“チェキ”のセルスルーが米国、欧州主要国、中国で対前年増加。
- ・電子映像では、デジタルカメラ市場全体が厳しい状況であることに加え、新型コロナ影響により全体の売上は減少。高級コンパクト「FUJIFILM X100V」と、高速AFや高い動画性能を評価されているミラーレス「FUJIFILM X-T4」の販売は好調に推移。
- ・光学デバイスでは、イベント自粛の影響が大きい放送・シネマ用レンズの販売減や世界的な自動車需要減による車載レンズの販売減などによって、売上が減少。

- ・売上は、新型コロナ影響により、世界各国での外出規制や店舗の休業、各種イベントの自粛・中止などの影響を受けて、減収。
- ・営業利益は減益も、新型コロナ影響を除くと増益。

イメージング ソリューション部門の業績の概要について説明します。

フォトイメージングは、カラーペーパーの需要減少に加え、新型コロナ影響による外出規制、店舗の休業により減収となりました。

一方で、「instax mini 11」を中心に“チェキ”の6月度単月のセルスルーが米国、欧州主要国、中国で前年を上回るなど、インスタントフォトシステムの販売は回復傾向にあります。

電子映像は、デジタルカメラ全体の市場環境が厳しいことに加え、新型コロナ影響による店舗休業や外出制限による撮影機会の減少を受け、減収となりましたが、

高速オートフォーカスや高い動画性能を評価されている

「FUJIFILM X-T4」の販売が好調に推移し、ミラーレス市場で大きくシェアを伸ばしました。

光学デバイスでは、イベント自粛の影響が大きい放送・シネマ用レンズの販売減や

世界的な自動車需要減による車載レンズの販売減などによって、売上は減少しました。

イメージング ソリューション部門は、主に新型コロナ影響により対前年で売上高は減少、営業利益は減益となりましたが、新型コロナ影響を除くと増益となっています。

## 連結貸借対照表

					(単位：億円)				
	19年 3月期末	20年 3月期末	21年3月期 6月末	対20年 3月期末		19年 3月期末	20年 3月期末	21年3月期 6月末	対20年 3月期末
現金 及び現金同等物	6,547	3,961	3,863	-98	長短社債 及び借入金	5,241	6,242	5,623	-619
受取債権	6,178	5,584	4,629	-955	支払債務	2,384	2,223	1,983	-240
棚卸資産	3,745	3,809	4,264	455	その他流動 固定負債	4,073	4,814	4,910	96
その他流動資産	839	1,538	1,660	122	負債計	11,698	13,279	12,516	-763
流動資産計	17,309	14,892	14,416	-476	株主資本計	20,370	19,533	19,879	346
有形固定資産	5,268	6,005	5,989	-16	非支配持分	2,079	405	427	22
営業権	6,555	6,872	6,869	-3	純資産計	22,449	19,938	20,306	368
その他固定資産	5,015	5,448	5,548	100	負債・純資産 合計	34,147	33,217	32,822	-395
固定資産計	16,838	18,325	18,406	81	(単位：円)				
資産合計	34,147	33,217	32,822	-395	期末日 為替レート	19年 3月期末	20年 3月期末	21年3月期 6月末	対20年 3月期末
					米ドル	111	109	108	1円高
					ユーロ	125	120	121	1円安

バランスシートについて説明します。

2021年3月期6月末時点の資産合計は、  
2020年3月期末時点と比べ、営業債権の減少などにより、395億円減の  
3兆2,822億円となりました。

負債は、社債および借入金の減少などにより、763億円減の1兆2,516億円、株主資本は  
346億円増の1兆9,879億円となりました。

## キャッシュ・フロー

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー  
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー  
■ フリー・キャッシュ・フロー（事業買収等除く）  
 （単位：億円）



	(単位：億円)		
	19年3月期 1Q	20年3月期 1Q	21年3月期 1Q
四半期純利益	313	188	277
減価償却費	313	300	299
受取債権の増(-)減(+)	585	859	979
棚卸資産の増(-)減(+)	-293	-304	-455
営業債務の増(+)-減(-)	-75	-89	-166
その他	27	130	70
営業活動によるC F	870	1,084	1,004
設備投資	-148	-185	-230
ソフトウェアの購入	-38	-38	-38
投資有価証券の売却・購入等	-2	-33	-28
事業買収	-844	0	0
その他	-32	-35	-39
投資活動によるC F	-1,064	-291	-335
フリー・キャッシュ・フロー	-194	793	669
事業買収等を除くフリー・キャッシュ・フロー	652	826	697

※フリー・キャッシュ・フローから、事業買収および投資有価証券等の売却・購入を控除しています。

11

最後に、キャッシュ・フローについて説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、受取債権の減少などにより、1,004億円の収入となり、前年に対して80億円減少しました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資などにより、335億円の支出となりました。

この結果、事業買収等を除くフリー・キャッシュ・フローは、697億円の収入となりました。

経済環境等の先行きが不透明のため、2021年3月期は、設備投資等へのキャッシュ配分は、成長機会や投資効率を精査し、優先順位をつけて慎重に実施していきます。また、ROICとCCCを経営管理に導入することで、キャッシュの創出力とバランスシートの管理を強化し、健全な財務体質を維持していきます。

2021年3月期第1四半期決算の説明は以上です。

2021年3月期第1四半期 決算説明会

## 2021年3月期 業績予想

2021年3月期の連結業績予想について説明します。

## 2021年3月期 連結業績予想 (2020年8月13日時点)

(単位：億円)

	2020年3月期	2021年3月期	対前年度	新型コロナ影響
売上高	23,151 100%	22,000 100%	-1,151 -5.0%	-2,200 -
営業利益	1,866 8.1%	1,400 6.4%	-466 -25.0%	-650 -
税金等調整前 当期純利益	1,731 7.5%	1,700 7.7%	-31 -1.8%	-650 -
当社株主帰属 当期純利益	1,250 5.4%	1,200 5.5%	-50 -4.0%	-450 -
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	306.18円	300.20円	-5.98円	-
ROE	6.3%	6.0%	-0.3%	-
為替 : 米ドル	109円	108円	1円高	-
: ユーロ	121円	118円	3円高	-
銀価格 (/kg)	57,000円	61,000円	+4,000円	-

\* 2021年3月期 営業利益 為替感応度 米ドル：8億円 ユーロ：8億円

13

2021年3月期の売上高は、前年比5.0%減の2兆2,000億円、  
営業利益は、前年比25.0%減の1,400億円を計画します。

税金等調整前当期純利益は、前年比1.8%減の1,700億円、  
当社株主帰属当期純利益は、前年比4.0%減の1,200億円を計画します。

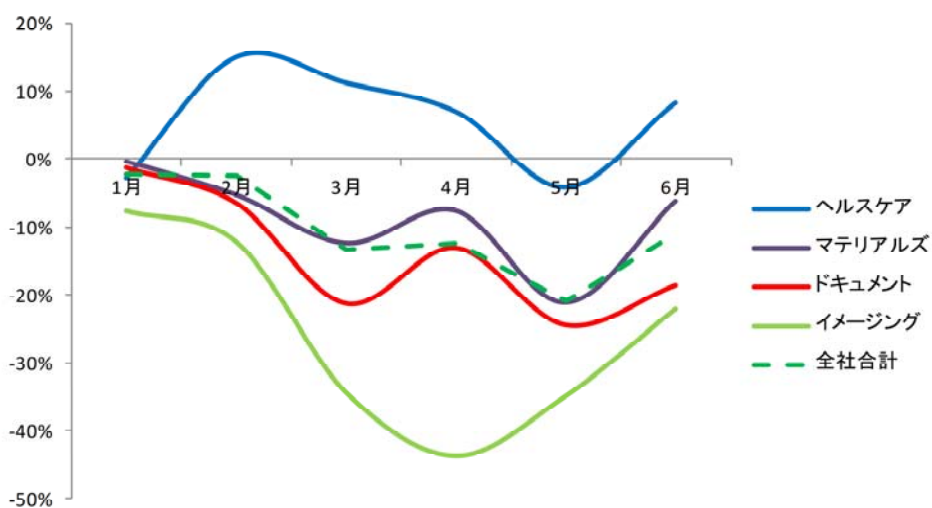
新型コロナ影響は、売上高でマイナス2,200億円、営業利益でマイナス650億円、  
為替影響は売上高でマイナス300億円、営業利益でマイナス100億円を見込んでいます。

また、富士ゼロックスから「富士フイルムビジネスソリューション」への社名変更に関わる費用90  
億円、日立製作所の画像診断関連事業買収に関連する費用50億円、一層の体質強化を  
推進するために110億円、合計で250億円の一時的な費用を見込んでいます。

新型コロナ影響・為替影響・構造改革費用等一時費用を除いた  
オペレーションベースでの比較において、対前年増収・増益を達成します。

## 2021年3月期 連結業績予想 (参考資料)

2020年1月-6月度 セグメント別売上高前年同月増減 (%)



14

こちらは、1月度から6月度までのセグメント別売上高の対前年増減率を表したグラフです。ご覧の通り、4月から5月を底に、6月以降回復基調となっています。これらの実績を背景として、当年の通期業績予想は第1四半期を底に、徐々に回復していくという前提で立案しております。

## 2021年3月期 セグメント別業績予想 (2020年8月13日時点)

(単位: 億円)

売上高	2020年 3月期	2021年 3月期	対前年度	新型コロナ影響
ヘルスケア	5,041	5,350	309 (+6.1%)	-400
マテリアルズ	5,201	4,850	-351 (-6.7%)	-440
ヘルスケア&マテリアルズ	10,242	10,200	-42 (-0.4%)	-840
ドキュメント	9,583	8,950	-633 (-6.6%)	-810
イメージング	3,326	2,850	-476 (-14.3%)	-550
合計	23,151	22,000	-1,151 (-5.0%)	-2,200

\*セグメント間取引消去後

営業利益	2020年 3月期	2021年 3月期	対前年度	新型コロナ影響
ヘルスケア	331	420	89 (+27.0%)	-150
マテリアルズ	593	430	-163 (-27.5%)	-140
ヘルスケア&マテリアルズ	924	850	-74 (-8.0%)	-290
ドキュメント	1,050	800	-250 (-23.8%)	-210
イメージング	251	100	-151 (-60.1%)	-150
全社/連結調整	-359	-350	9	0
合計	1,866	1,400	-466 (-25.0%)	-650

15

ヘルスケアは、増収・増益を見込んでいます。バイオCDMOが売上・利益成長を牽引します。医薬品のアビガンの国家備蓄も売上・利益に織り込んでいます。メディカルシステムは、日立製作所の画像診断事業の買収完了時期は未定であるため、当事業の売上・利益は見込んでおりません。

マテリアルズは、新型コロナ影響を受けて減収・減益です。グラフィックシステム/インクジェットについて、主力製品の刷版材料の需要は徐々に回復していきませんが、コロナ禍前の需要までは戻らないと見えています。一方で、商業印刷分野を中心にアナログからデジタルへの移行が進むことから、刷版材料の収益性を確保しながら、デジタル市場に対応した機器・部材の拡充を図ることにより、事業を展開していきます。ディスプレイ材料は、当期後半に消費マインドの後退によるテレビの生産調整の影響を受けると見っていますが、今後実用化が進むVR/AR向けなどの新規材料の開発を加速していきます。

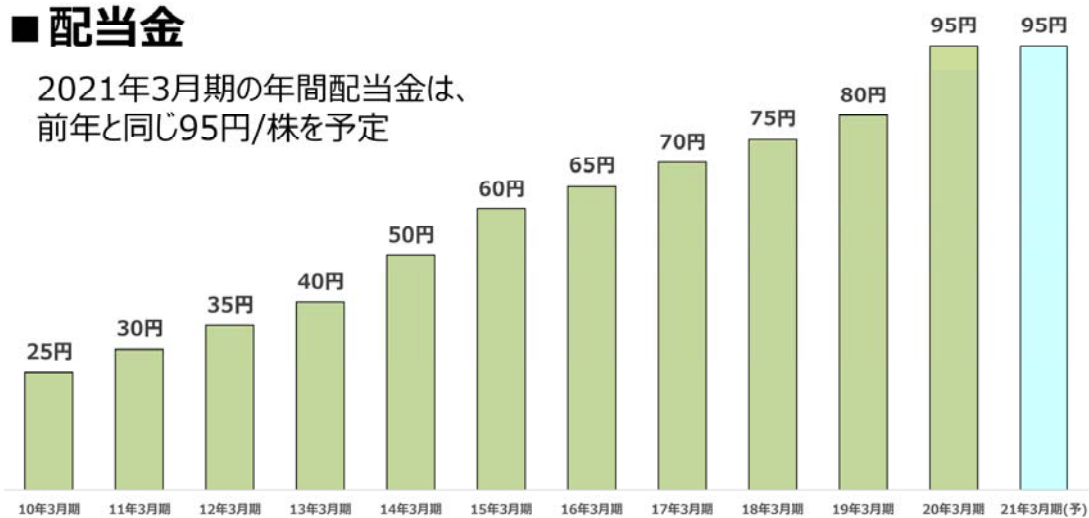
ドキュメントは、同じく新型コロナ影響によって減収・減益ですが、富士ゼロックスの社名変更やFUJIFILMブランド製品の開発のために90億円、コロナ後を見据えた更なる体質強化のために70億円、合計160億円の一時費用を計画しています。オフィスのプリントボリュームは、5月度を底に、オフィスの再開にあわせて徐々に回復していきませんが、テレワークやオンライン会議などの浸透によって、コロナ禍前までのボリュームには戻らない地域もあると見えています。そのため、新しい働き方に向けてソリューション&サービスを提供していく取り組みを加速するとともに、来期からはFUJIFILMブランド製品で販売領域を拡大していきます。さらには、米国ゼロックス社以外へOEMを拡大していきます。

イメージングは、最も新型コロナ影響を受けている領域ですが、「instax mini 11」や「FUJIFILM X-T4」などの新製品効果や外出規制の緩和などにより、4月を底に売上が大きく改善しつつあります。コスト・経費管理を徹底しつつ、チェキやデジタルカメラの特長ある新製品の投入や、オンライン販売の強化で売上の回復に努めていきます。さらに、超短焦点プロジェクターや長焦点監視カメラなど、当社独自の技術を生かした商品開発を進め、新規領域へ事業展開していきます。

## 株主還元

### ■ 配当金

2021年3月期の年間配当金は、  
前年と同じ95円/株を予定



### ■ 自己株式取得

キャッシュフローを勘案し、株価の推移に応じて機動的に実施

最後に、株主還元についてご説明いたします。

配当金について、2020年3月期まで、10期連続の増配を実施していましたが、新型コロナ影響による業績見通しの悪化により、2021年3月期の配当金は、前年と同じ1株当たり95円を予定します。

自己株式の取得については、キャッシュフローを勘案し、株価の推移に応じて機動的に実施していきます。

以上で、説明を終わります。

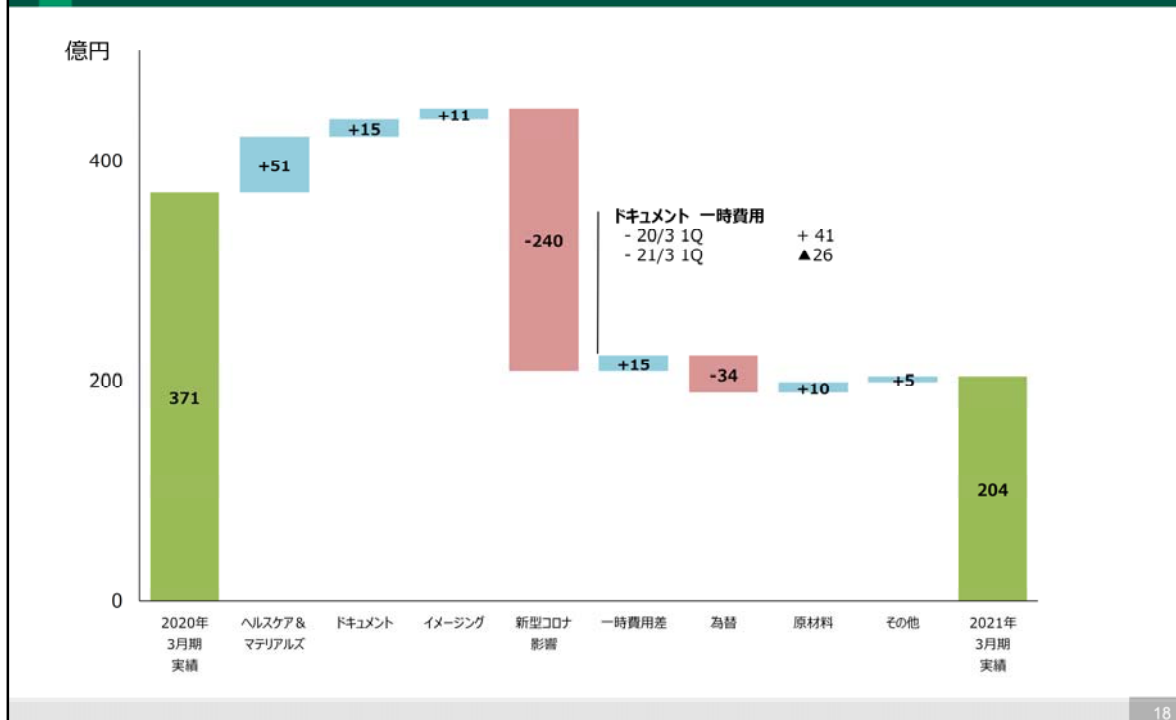


2021年3月期第1四半期 決算説明会

**参考資料**

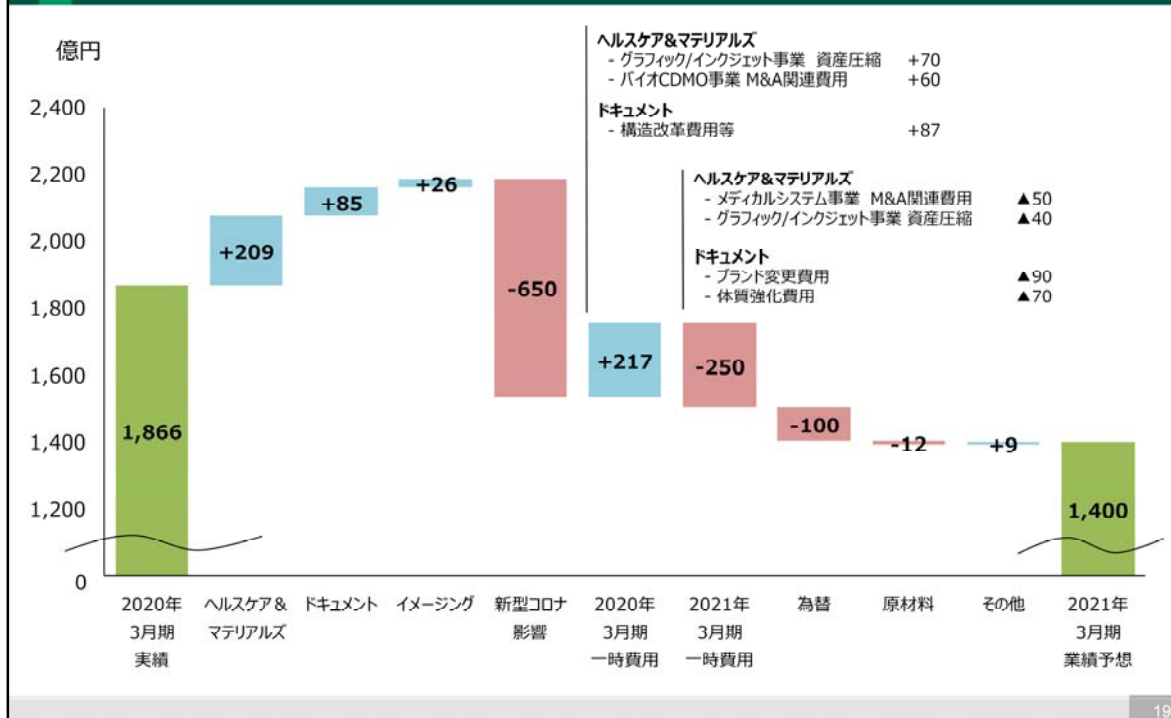
<当スライドは配付資料です>

## 営業利益増減分析(1Q実績 対前年)



<当スライドは配付資料です>

## 営業利益増減分析(通期業績予想 対前年)



<当スライドは配付資料です>

## 1Q 業績

## ■ ヘルスケア&amp;マテリアルズ ソリューション

(単位：億円)

売上高	1Q			
	2020年 3月期	2021年 3月期	対前年度	為替影響除く
ヘルスケア	1,041	1,079	38 (+3.7%)	60 (+5.8%)
ディスプレイ材料	208	207	-1 (-0.2%)	-1 (-0.2%)
産業機材/電子材料 ファインケミカル	412	461	49 (+11.9%)	56 (+13.8%)
高機能材料	620	668	48 (+7.9%)	55 (+9.1%)
記録メディア	97	55	-42 (-43.5%)	-41 (-42.1%)
グラフィックシステム/インクジェット	515	365	-150 (-29.2%)	-143 (-27.6%)
その他	3	4	1	3
合計	2,276	2,171	-105 (-4.6%)	-66 (-2.9%)

\*セグメント間取引消去後

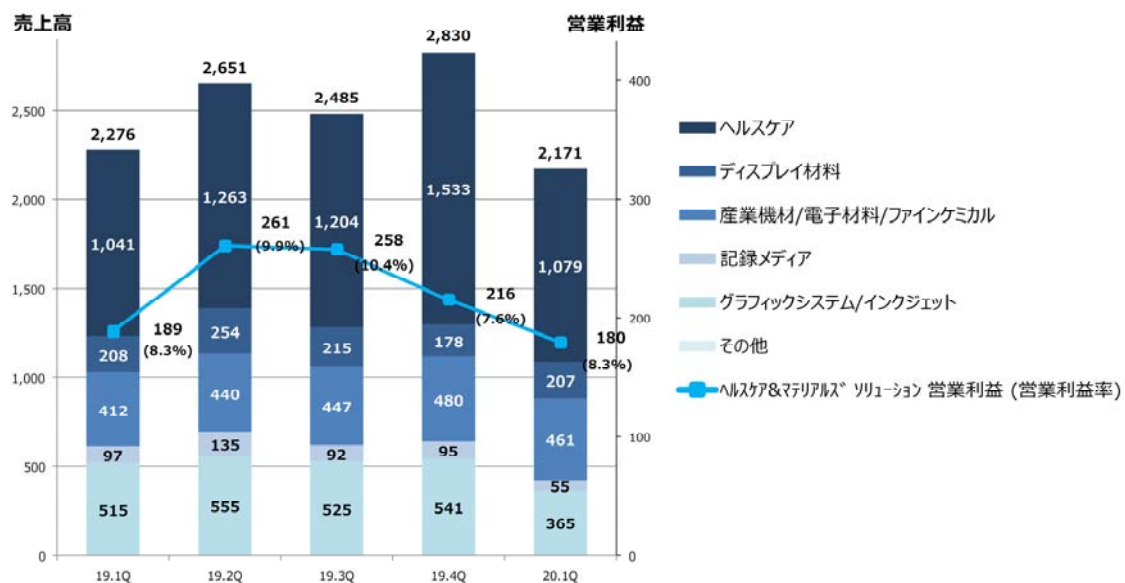
営業利益 [営業利益率]	1Q			
	2020年 3月期	2021年 3月期	対前年度	為替影響除く
ヘルスケア	53 [5.1%]	44 [4.1%]	-9 (-16.7%)	-4 (-6.6%)
ヘルスケア&マテリアルズ	189 [8.3%]	180 [8.3%]	-9 (-4.7%)	0 (+0.2%)

20

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

### ■ ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション (単位：億円)



<当スライドは配付資料です>

## 1Q 業績

## ■ ドキュメント ソリューション

(単位：億円)

売上高	1Q			
	2020年 3月期	2021年 3月期	対前年度	為替影響除く
オフィスプリンター	288	234	-54 (-18.7%)	-49 (-16.9%)
オフィスプロダクト&プリンター	1,337	1,084	-253 (-18.9%)	-231 (-17.3%)
プロダクションサービス	273	210	-63 (-22.9%)	-57 (-20.7%)
ソリューション&サービス	625	517	-108 (-17.3%)	-97 (-15.5%)
その他	96	83	-13	-10
合計	2,331	1,894	-437 (-18.7%)	-395 (-17.0%)

\*セグメント間取引消去後

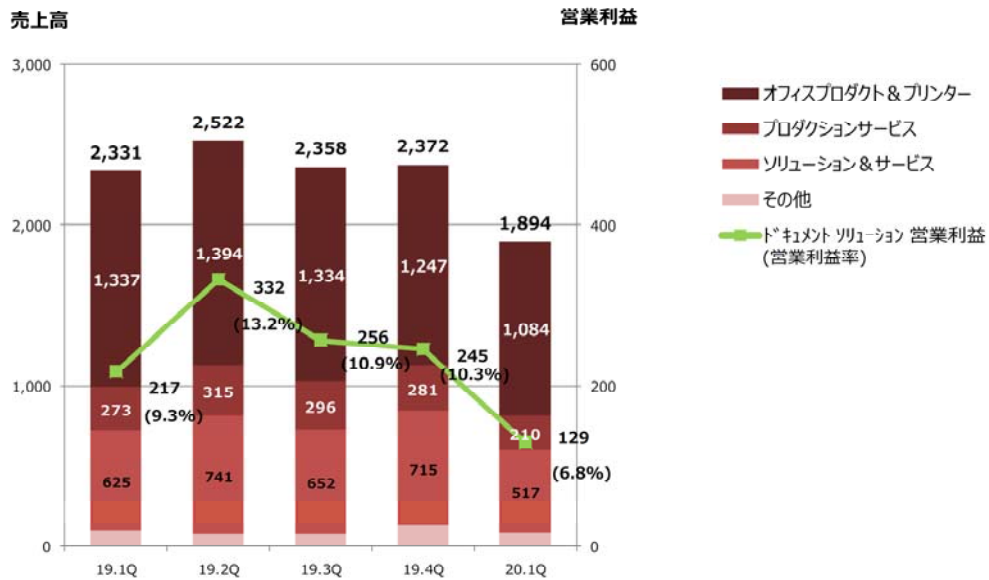
営業利益 [営業利益率]	1Q			
	2020年 3月期	2021年 3月期	対前年度	為替影響除く
ドキュメント	217 [9.3%]	129 [6.8%]	-88 (-40.8%)	-70 (-32.7%)

22

&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

### ■ ドキュメント ソリューション (単位：億円)



<当スライドは配付資料です>

## 1Q 業績

## ■ イメージング ソリューション

(単位：億円)

売上高	1Q			
	2020年 3月期	2021年 3月期	対前年度	為替影響除く
フォトイメージング	469	304	-165 (-35.1%)	-156 (-33.2%)
電子映像	196	152	-44 (-22.3%)	-38 (-19.0%)
光学デバイス	81	42	-39 (-48.8%)	-38 (-48.1%)
光学・電子映像	277	194	-83 (-30.1%)	-76 (-27.5%)
合計	746	498	-248 (-33.2%)	-232 (-31.1%)

\*セグメント間取引消去後

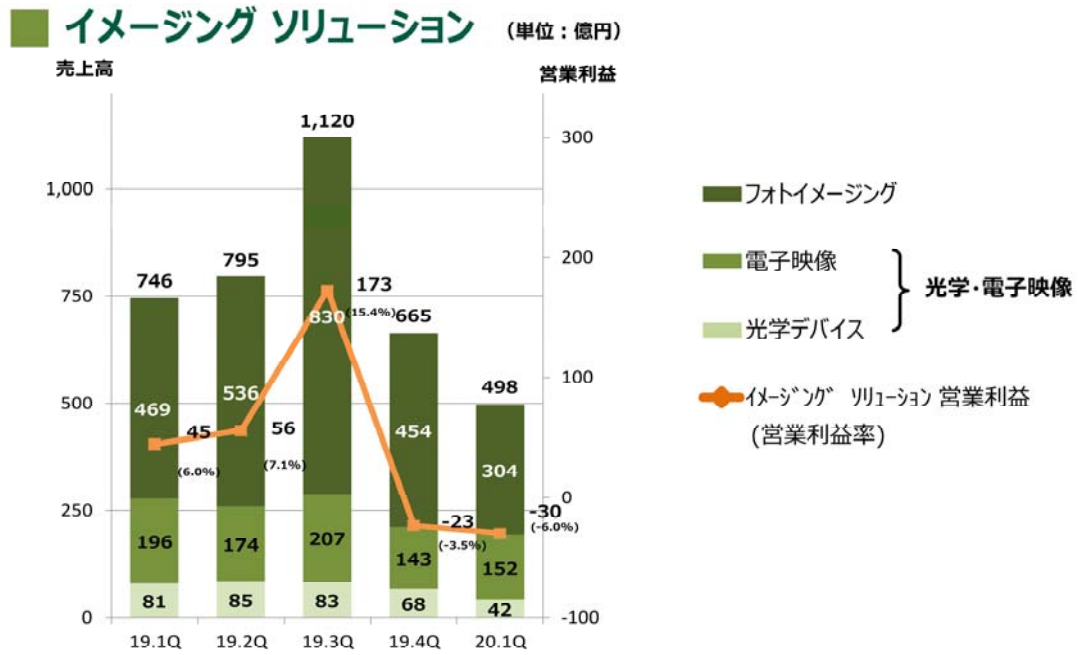
営業利益 [営業利益率]	1Q			
	2020年 3月期	2021年 3月期	対前年度	為替影響除く
イメージング	45 [6.0%]	-30 [-6.0%]	-75 (赤字化)	-68 (赤字化)

24

&lt;当スライドは配付資料です&gt;



## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移



<当スライドは配付資料です>

## 国内・海外別連結売上高

(単位：億円)

	2020年3月期 1Q		2021年3月期 1Q		対前年度	
	構成比(%)		構成比(%)			
日本	41.4%	2,214	44.5%	2,029	-185	(-8.4%)
米州	18.5%	992	17.2%	784	-208	(-21.0%)
欧州	12.8%	688	10.8%	496	-192	(-27.9%)
内、中国	12.8%	687	15.0%	684	-3	(-0.5%)
アジア他	27.3%	1,459	27.5%	1,254	-205	(-14.1%)
海外	58.6%	3,139	55.5%	2,534	-605	(-19.3%)
合計	100.0%	5,353	100.0%	4,563	-790	(-14.8%)

26

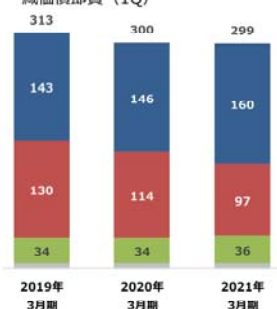
&lt;当スライドは配付資料です&gt;

## 設備投資、減価償却費

設備投資 (1Q)



減価償却費 (1Q)



(単位：億円)

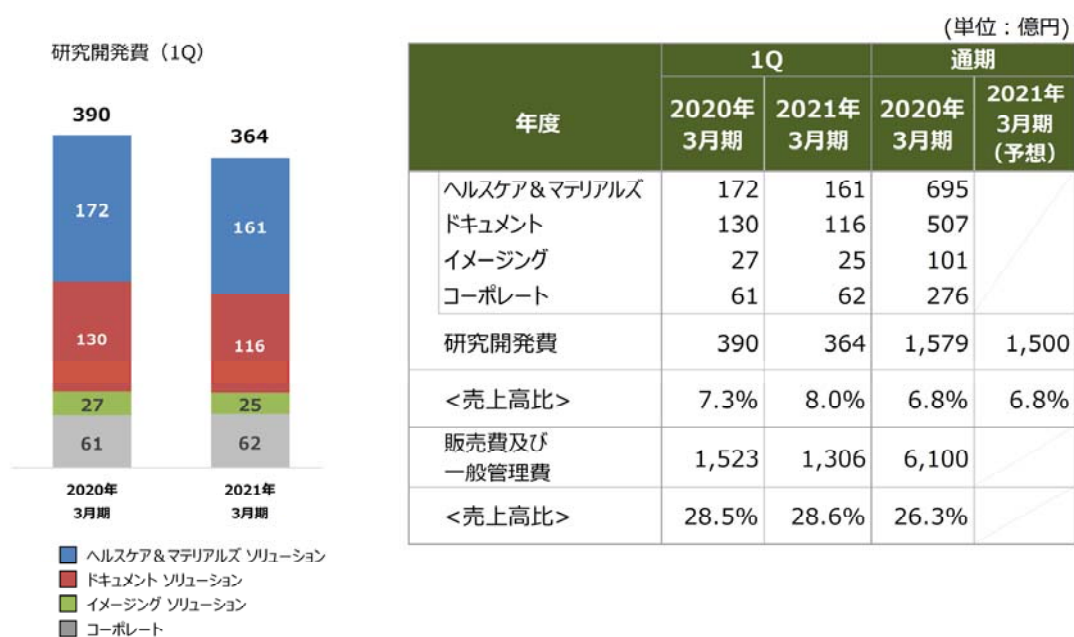
年度	1Q			通期		
	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期 (予想)
ヘルスケア&マテリアルズ	73	105	109	505	582	
ドキュメント	20	16	20	117	134	
イメージング	30	21	21	106	125	
コーポレート	1	2	3	26	16	
設備投資 ※	124	144	153	754	857	950
ヘルスケア&マテリアルズ	143	146	160	631	639	
ドキュメント	130	114	97	501	418	
イメージング	34	34	36	141	146	
コーポレート	6	6	6	26	24	
減価償却費	313	300	299	1,299	1,227	1,350
有形固定資産の 減価償却費 ※	167	163	165	709	686	

- ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション
- ドキュメント ソリューション
- イメージング ソリューション
- コーポレート

※ ドキュメント ソリューション部門等のレンタル資産を除く。

<当スライドは配付資料です>

## 研究開発費、販売費及び一般管理費



28

<当スライドは配付資料です>

## 為替、原材料価格、人員

### 為替

(単位：円)

	2020年3月期					2021年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	通期(予想)
米ドル	110	107	109	109	109	108	108
ユーロ	123	119	120	120	121	119	118

### 原材料価格 (平均)

(単位：千円/kg)

	2020年3月期					2021年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	通期(予想)
銀	53	57	60	61	57	55	61

### 人員

(単位：人)

	2019.6末	2019.9末	2019.12末	2020.3末	2020.6末
連結	72,358	72,842	73,092	73,906	73,569

<当スライドは配付資料です>

## パイプライン (2020年8月13日時点)

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階
T-705	抗新型コロナウイルス (COVID-19) 薬	経口	日本	Ph III
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 治療薬		米国	Ph II
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	日本	Ph III
			米国	Ph II
	脳卒中後のリハビリテーション効果促進薬		日本	Ph II
T-4288	新規フルオロケトライド系抗菌薬	経口	日本	承認申請中
FF-10501	骨髄異形成症候群治療薬	経口	日本	Ph I
FF-10502	進行・再発固形がん治療薬	注射	米国	Ph II
FF-21101	進行・再発固形がん治療薬 (Armed抗体)	注射	米国	Ph I / II a
			日本	Ph I
F-1311	前立腺がん診断薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph II
FF-10101	急性骨髄性白血病治療薬	経口	米国	Ph I
F-1515	神経内分泌腫瘍治療薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph I / II
FF-10832	進行性固形がん治療薬 (ゲムシタピンリボソーム)	注射	米国	Ph I
FF-10850	進行性固形がん治療薬 (トボテカンリボソーム)	注射	米国	Ph I
F-1614	難治性褐色細胞腫治療薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph II

30

<当スライドは配付資料です>

## 参考情報

### 富士フィルムホールディングス 株主・投資家情報

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors.html>

### 富士フィルムホールディングス 統合報告書2019

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/integrated-report.html>

### IR資料室

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials.html>

### 富士フィルムってどんな会社？

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/individual.html>

### グローバルブランディングキャンペーン「NEVER STOP」

<https://brand.fujifilm.com/neverstop/jp>

### 新型コロナウイルス感染症への取り組み

<https://brand.fujifilm.com/covid19/jp/>

<当スライドは配付資料です>

# FUJIFILM

## Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社

コーポレートコミュニケーション部

<https://holdings.fujifilm.com/ja>